

## 『経営行動科学』投稿論文チェックリスト

以下のチェック項目と、投稿規程をご確認の上ご投稿ください。チェックリストの提出は不要です。

番号	チェック内容	投稿規程からの引用
全体		
1	表紙は Word ファイルになっているか	提出物は、論文（本文、引用文献、注など）の Word ファイル、図表（ファイル形式はオンライン投稿システムマニュアルを参照のこと）、表紙の Word ファイル（投稿論文表紙フォーマットを使用のこと）である。
2	論文（本文、引用文献、注など）は Word ファイルになっているか	
3	図表のファイル形式は、オンライン投稿システムで処理できる形式になっているか	
4	論文本文の Word ファイルには、執筆者が特定できる情報が含まれていないか	論文本文のデータには、投稿者が特定できる情報を記してはならない。同様にファイル名にも投稿者を特定できる情報を一切記してはならない。
5	論文の文字数は規程以内か	投稿される論文の長さは、本文や注、参考文献、図表を合わせ、和文では 20,000 字以内、英文では 6,700 語以内を原則とする（共に単語数ベース）。図表は一枚 400 字相当として換算する。ただし、調査方法論上の理由により字数超過が回避できないと編集委員会が判断する場合、和文で 30,000 字、英文で 10,000 語を上限に投稿が受理されることもある。
6	論文の構成は妥当か	投稿される論文の構成は、問題・方法・結果・考察の 4 部からなることが望ましい。理論的な研究においては、将来の研究によって検証されるべき命題や仮説を明示することが望ましい。
7	本文中の記述（難読漢字・旧仮名遣い、数字、外国人名・地名、社会通念上差別的と見られうる表現、投稿者の氏名など）が適切に行われているか	本文中の記述は簡潔明瞭を旨とし、難読漢字・旧仮名遣いの使用は資料の引用以外行わない。数字は原則的に算用数字、計算単位は国際単位系（SI）を用いる。外国人名・地名に原語を用いる以外は、記述中の外国語になるべく和訳をつける。図表を活用することは望ましいが、その数は必要最小限とし、重複をさける。また、社会通念上差別的と見られうる表現については、それが本文中で考察・分析の対象となっている場合、あるいは事例研究において情報提供者の発言をそのまま掲載する等の必然性がある場合を除き避ける。また、投稿者の氏名等は一切記載しないものとする。
8	投稿論文中で扱った特定の個人や団体に事前に論文を執筆し投稿することについての了解を得ているか	投稿論文中で特定の個人や団体を扱う場合には、論文を執筆し投稿することについての了解を彼らから事前に得なければならない。また、個人や団体の実名を用いる場合には当該個人・団体の了解を得ることとする。ただし、一般に公開され、広く入手可能なデータのみによる研究についてはこの限りではない。

番号	チェック内容	投稿規程からの引用
表紙		
9	投稿論文表紙フォーマットを使用しているか	表紙については、投稿論文表紙フォーマットに記入の上、提出する。
論文		
10	MS Word で作成しているか A4 の 1 段組みになっているか	原稿はMS Wordを使用して、A4 の 1 段組みで作成する。
11	ページ番号が振られているか	論文の下余白にページ番号を、左の余白にページごとに番号を振り直す形で行番号を表示する。
12	行番号が振られているか	
13	章・節の区分は適切か	極端に細かな章・節の区分を避ける。
14	論文の記載事項は規程通りの順番になっているか	論文の記載事項の順番は以下の通りとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・表題（和文）※英文の論文の場合は記載不要</li> <li>・表題（英文）</li> <li>・要旨（英文）※100～175語で記載</li> <li>・キーワード（英文）※最大6つ</li> <li>・本文</li> <li>・引用文献</li> <li>・注 ※記載がある場合</li> </ul>
15	本文中の引用の表記は適切か	引用には必ず原語を使用し、カタカナ表記はしない。当該文献の著者が 2名以下の場合には全員を記載するが、3名以上の場合には 1 人目まで書き、2人目からは「他」または「et al.」とする。同一著者による同一年公刊文献がある場合には、それらを区別するために、a、b、c、…を付す。ただし、同一年公刊のもので二人目以降に異なる著者が含まれている場合は、全員または著作の差異がわかるまで著者名を記載する。
16	著者推定可能箇所が無い場合がある場合はマスキング処理をする。マスキング処理の方法は、該当箇所を（著者推定可能箇所につきマスキング）と置き換える。	また、自著の引用については、以下の例の通り、「著者推定可能箇所につきマスキング」と記載し、その自著の引用文献は投稿時点では記載せず、採択後に引用を修正し引用文献の追記を行うこととする。
17	主語の引用の表記は適切か	<p>【本文中主語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆若林 (1995c, 1996a) は、・・・藤本他 (2021) によれば、・・・</li> <li>◆Parker &amp; Fisher (2022) は、・・・Griffin et al. (2007) によれば、・・・</li> <li>◆Judge &amp; Kammeyer-Muller (2012a) は、・・・Judge &amp; Kammeyer-Muller (2012b) によれば、・・・</li> <li>◆Ashforth, Sluss, &amp; Harrision (2007) は、・・・Ashforth, Sluss, &amp; Saks (2007) によれば、</li> <li>◆Kapoor, Bloom, Montz, et al. (2017) は、 ・・・Kapoor, Bloom, Zucker, et al. (2017) によれば、・・・</li> </ul>

番号	チェック内容	投稿規程からの引用
18	文末の引用の表記は適切か	<p>【文末引用（括弧）】</p> <p>◆・・・である（金井，2016）。・・・といえる（若林他，1997）。</p> <p>◆・・・であろう（Sampson &amp; Hughes, 2020）。</p> <p>【括弧内での文章形式の引用】</p> <p>◆・・・と言える（藤本・渡辺，1995；松原，1994）。</p> <p>【括弧内連続引用（アルファベット順）】</p> <p>◆・・・である（Neumayer &amp; Plümper, 2017；佐藤，2021a）。</p> <p>【自著の引用】</p> <p>◆・・・である（著者推定可能箇所につきマスキング）。</p>
19	引用文献の表記は適切か	<p>文献引用は必要最低限のもののみをあげ、本文の後ろに一括して次のように示す。</p> <p>a. 各文献は筆頭著者名のアルファベット順（同一著者の場合は、刊行年順）に記載する（欧文・邦文の文献を区別せずに順番に記載する）。</p> <p>b. 欧文・邦文とも雑誌名は略称しない。</p> <p>c. 学位論文を引用文献に含める場合、論題の後、著書であれば社名の記載場所に相当するところに「〇〇大学博士学位請求論文」といった記載を行う。</p> <p>d. 学会報告を引用文献に含める場合、当該大会が発行する報告集のタイトルと掲載頁数を明らかにする。</p> <p>e. 詳細は以下の例を参照すること。欧文はAPA（第7版）形式に準拠する（ただし、DOIの記載は早期公開論文を除いて不要）。</p>
20	外国語論文の表記は適切か	<p>1) 外国語論文：著者姓名.(発表年). 論文題名. 雑誌名, 巻数(号数), 開始頁-終了頁.</p> <p>Cascio, W. F. (2019). Training trends: Macro, micro, and policy issues. <i>Human Resource Management Review</i>, 29(2), 284-297.</p> <p>Mullan, K., &amp; Wajcman, J. (2019). Have mobile devices changed working patterns in the 21st century? A time-diary analysis of work extension in the UK. <i>Work, Employment and Society</i>, 33(1), 3-20.</p> <p>Uribe, J., Sytch, M., &amp; Kim, Y. H. (2020). When friends become foes: Collaboration as a catalyst for conflict. <i>Administrative Science Quarterly</i>, 65(3), 751-794.</p>
21	外国語書籍の表記は適切か	<p>2) 外国語書籍：著者姓名.(発表年). 書籍名. 出版社.</p> <p>Argyris, C. (1957). <i>Personality and organization</i>. Harper and Row. (伊吹山太郎・中村実訳. 組織とパーソナリティ. 日本能率協会, 1970)</p> <p>Choen, S., Mermelstein, R., Kamarck, T., &amp; Hoberman, H. M. (1985). Measuring the functional components of social support. In I. G. Sarason &amp; B. R. Sarason (Eds.), <i>Social support: Theory, research and applications</i> (pp. 73-94). Maltinus Nihoff Publishers.</p>

番号	チェック内容	投稿規程からの引用
22	日本語論文の表記は適切か	3) 日本語論文：著者姓名（発表年）. 論文題名. 雑誌名, 巻数（号数）, 開始頁-終了頁. 西田豊昭（1997）. 企業における組織市民行動に関する研究—企業内における自主的な行動の原因とその動機. 経営行動科学, 11(2), 101-122. 古田克利（2021）. 仕事の要求度と心理的ストレス反応の関連に対するキャリア・トランジションの調整効果. 経営行動科学学会第24回年次大会発表論文集, 209-215.
23	日本語書籍の表記は適切か	4) 日本語書籍：著者姓名（発表年）. 書籍名. 出版社名. 野中郁次郎（1990）. 知的創造の経営. 日本経済新聞社. 藤本哲史（2011）. ワーク・ライフ・バランス. 経営行動科学学会（編）経営行動科学ハンドブック（pp. 417-423）. 中央経済社.
24	オンライン資料の表記は適切か	5) 著者姓名（公開年*）. 標題**. ウェブサイト名***. Retrieved from URL * 不明の場合は、n.d.と表記。 ** 欧文の場合はイタリック。 *** ウェブサイト名が著者名と同一であれば省略可。 Kenny, D. (2020). Measuring model fit. Retrieved from <a href="http://davidakenny.net/cm/fit.htm">http://davidakenny.net/cm/fit.htm</a> 厚生労働省（2022）. 賃金の推移. 令和3年賃金基本構造統計調査 結果の概要. Retrieved from <a href="https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzu/z2021/dl/01.pdf">https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzu/z2021/dl/01.pdf</a>
25	オンライン早期公開論文の表記は適切か	6) 著者姓名（公開年）. 論文題名. 雑誌名*. Advance online publication. <a href="http://doi.org/xxx">http://doi.org/xxx</a> ** * 欧文の場合はイタリック。 ** DOIがない場合は、Retrieved from URLを記載。 Liborius, P., & Kiewitz, C. (2022). When leader humility meets follower competitiveness: Relationships with follower affective trust, intended and voluntary turnover. <i>Journal of Vocational Behavior</i> . Advance online publication. <a href="https://doi.org/10.1016/j.jvb.2022.103719">https://doi.org/10.1016/j.jvb.2022.103719</a> 萩原千晶・下司忠大・小塩真司（2022）. 日本語版改訂非緩和共同性尺度の作成. 心理学研究. Advance online publication. <a href="https://doi.org/10.4992/jjpsy.93.20216">https://doi.org/10.4992/jjpsy.93.20216</a>
26	注の書き方は妥当か	注は必要最小限、原則として後注とし、引用文献の後ろに一括して示し、本文中には書き込まない。
27	投稿時点で謝辞が入っていないか	謝辞については、投稿時点では記載しない。採択後に投稿者から謝辞の記載を申し出ることとする。

番号	チェック内容	投稿規程からの引用
図表		
28	本文に図表の挿入箇所が示されているか	図表は本文には貼り付けず、本文中では「図1を挿入」のような記載を挿入箇所で行う。
29	図表は論文と別のファイルになっているか	図表自体は論文と別ファイルで作成し、ファイル形式はExcel、Power Point他、オンライン投稿システム上で処理できる種類のものとする（詳細はオンライン投稿システムマニュアルを参照のこと）。
30	図表の番号が記載されているか	図と表のそれぞれには一連番号をつけ、図 1、表 1、図 2、表 2、と表示する。
31	図表は白黒になっているか	図表は白黒とし、色は使用せずに、印刷出来上がりの等倍を想定して作成する。